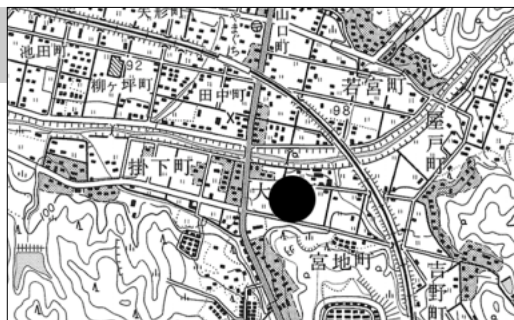


おおつぼにし
大坪西遺跡

所在地 瀬戸市大坪町
 調査理由 瀬戸環状線建設
 調査期間 平成 12 年 12 月～ 13 年 1 月
 調査面積 54 m²
 担当者 北村和宏・小澤一弘・魚住英史



調査地点 (1/2.5 万「瀬戸」)

調査の経過 大坪西遺跡は瀬戸市大坪町に所在する古代から近世にかけての複合遺跡で、調査は瀬戸環状線建設のための事前調査として、愛知県建設部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成 12 年 12 月から平成 13 年 1 月にかけて調査を実施した。

立地と環境 矢田川南側の沖積地で、矢田川に注ぎ込む吉田川（東側）と薬師川（西側）に挟まれた部分に立地する。国道 155 号線の東側で現在は水田となっている。南側には縄文時代後期の住居跡が 1 棟検出された大坪遺跡が所在する。

調査の概要 大坪西遺跡の南西部に位置する本年度の調査区からは、調査区東側より土坑状の落ち込み 2ヶ所 (S X 01・S X 02) を検出したが、本年度の調査区では完掘できなかった。

S X 01 は調査区南東部分にあり、試掘坑により東側の一部が削平されていたが、黄灰色粘質土粗砂混じりの層位から 7 世紀代の須恵器坏身片や土師器甕片が出土した。

S X 02 は調査区北東部分にあり、四分の一程調査できたのみであるが、灰黄色粘質土細粒砂混じりの層位より土師器甕片が出土した。

遺物は黄灰色粘質土（第 6 層）の最下部で灰黄色粘質土（第 7 層）との境に土師器甕片などが出土した。また現水田の床土とした第 4 層、第 5 層より山茶椀片が出土している。

(小澤一弘)



調査区位置図 (1 : 5,000)



00 区全景 (西より)